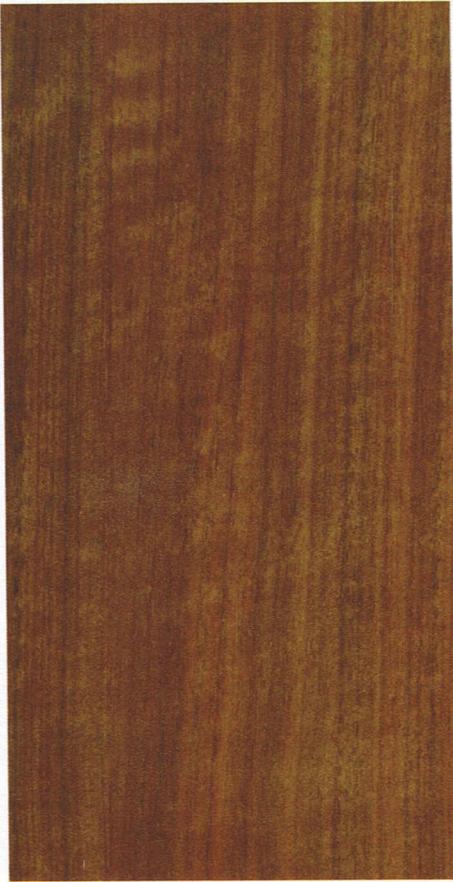


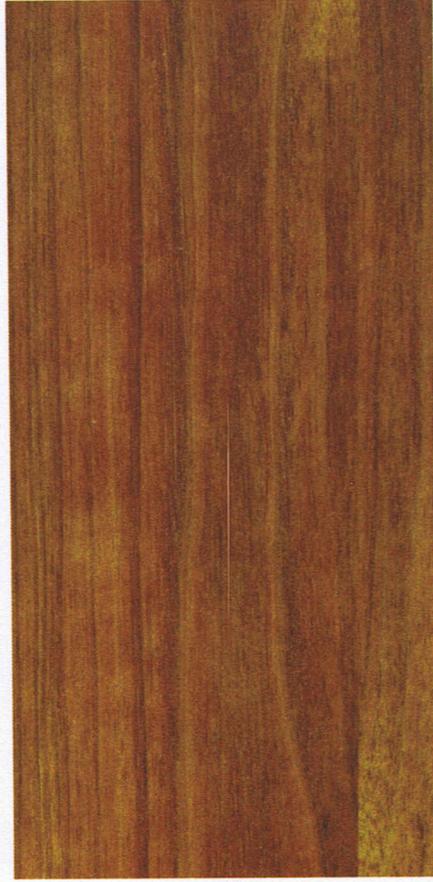
# BLACK WALNUT

## ブラック ウォールナット

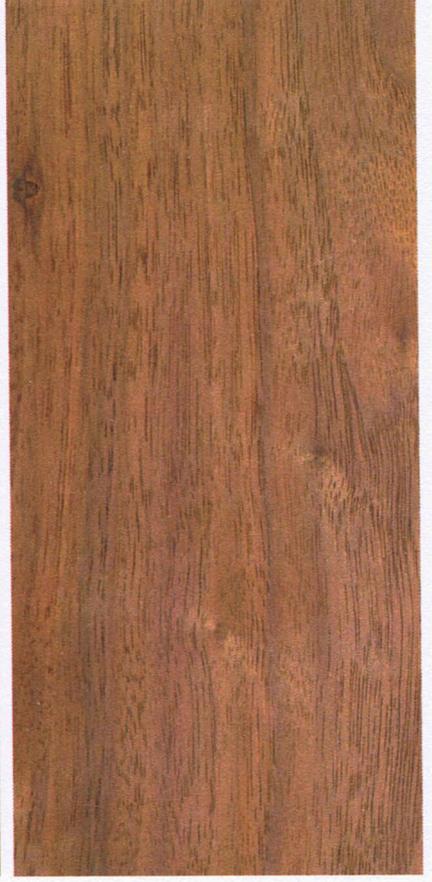
Black Walnut (ブラック ウォールナット)	クルミ科クルミ属	学名 <i>Juglans nigra</i>
表面状態	導管が少し年輪に集中する傾向がある半環孔材。肌目はやや粗い。木理は不規則なことがあり、美しい杢になることがある。	
生育地	アメリカ中部～東部。蓄積は減少傾向。持続的に供給は可能。	
材色	心材 茶褐色～紫味の赤・黒褐色、柾目に濃淡の縞模様。辺材 淡灰褐色～淡黄褐色。経時的に暗色化する。	
重さ	気乾比重 0.55(g/cm <sup>3</sup> ) 比重のバラツキは大きい。あまり重い木材ではない。	
強さ	曲げ強さ 100N/mm <sup>2</sup> 縦圧縮強さ 50N/mm <sup>2</sup> 重さに対応した強さである。	
弾性係数	曲げ弾性係数 11.8kN/mm <sup>2</sup> 重さに対応した硬さである。	
加工性	加工性は良好。サクサクとした切削。木彫や旋削(ロクロ)加工に適する。釘やネジ着、接着性は良好。曲げ加工は適する。	
耐久性	耐久性は高い。辺材は水を含むと弱くなる。	
安定性	狂いは生じにくい。製品後の安定性は良好。	
乾燥性	木材乾燥は比較的容易。木材乾燥による狂いや割れは比較的小さい。	
塗装性	塗料の付着性は良好。仕上がり感は良い。	
同属樹種	クラロウォールナット(アメリカ西海岸産)、オニグルミ(日本産、 <i>J. sieboldiana</i> )、ヨーロッパアンウォールナット(欧州東南部産、 <i>J. regia</i> )、その他中国や中東地域にも存在する。	
同名異種	アフリカンウォールナット(別名;ラボア、西アフリカ産、 <i>Lavoa trichilioides</i> )、アフリカンブラックウォールナット(別名;マンソニア、西アフリカ産、 <i>Mansonia altissima</i> )、ブラジリアンウォールナット(別名;インブイア、ブラジル産、 <i>Phoebe porosa</i> )、クインズランドウォールナット(オーストラリア産、 <i>Endiandra palmerstonii</i> )、ニューギニアウォールナット(別名;白レオ、ニューギニア産、 <i>Dracontomelun mangiferum</i> )、ソロモンウォールナット(別名;タマクラ、ソロモン諸島産、 <i>Mangifera solomonensis</i> )、テーブルランドウォールナット(別名;パルダオ、ニューギニア産、 <i>Dracont omelun dao</i> )等。 こういった高級材には、必ず〇〇ウォールナットと称する木材が流通するようになる。ウォールナット(クルミ)と種属は異なるが、似たような色調や木目のもので、地域の名前等を冠していることが多い。本当のウォールナットではないといっても、十分に素晴らしい木材で、時には銘木とされているものもある。	
用途	高級家具、キャビネット、内装建具、銃床、楽器、木彫品、ろくろ細工、化粧単板。特に銃床には賞用され、日本ではオニグルミが使われていた。実は食用にされる。家具材として、17世紀後半～18世紀中頃、西洋のバロック～ロココ様式の頃、特に流行し、ウォールナット(ヨーロッパアンウォールナットが多かった)時代といわれていた。日本でもウォールナットがブームになった時期(70～80年頃)があり、ウォールナットの色調の〇〇ウォールナットが大量に使われたことがあった。	



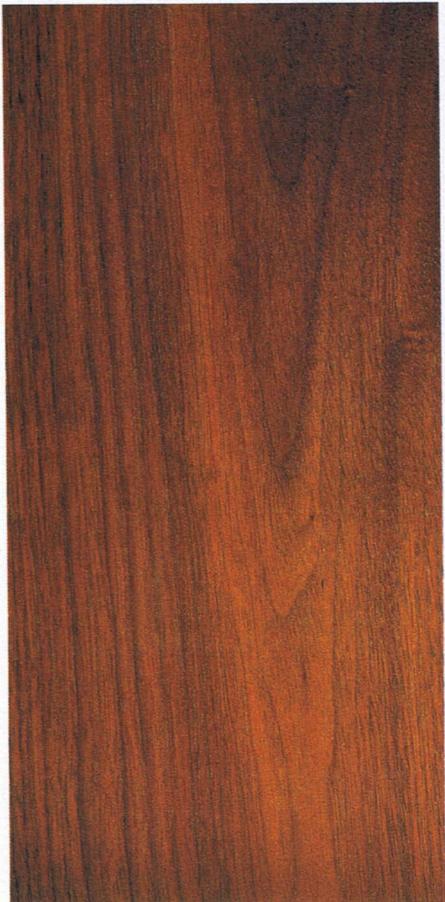
ブラックウォールナット®



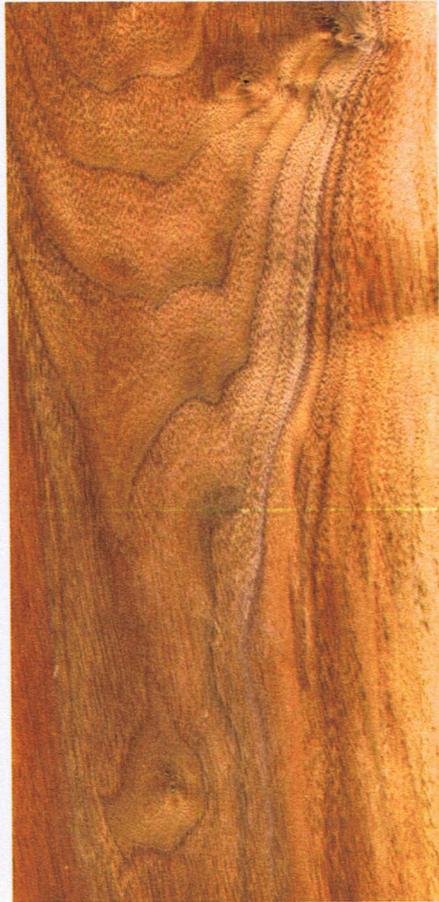
ブラックウォールナット®



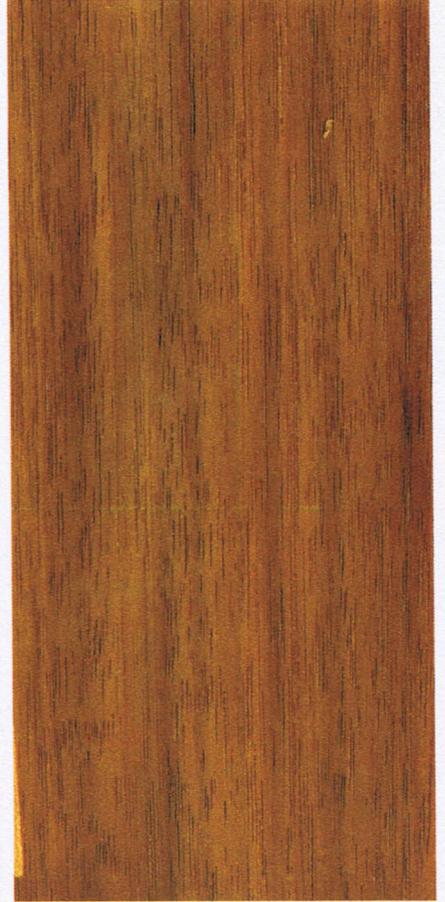
ブラックウォールナット®



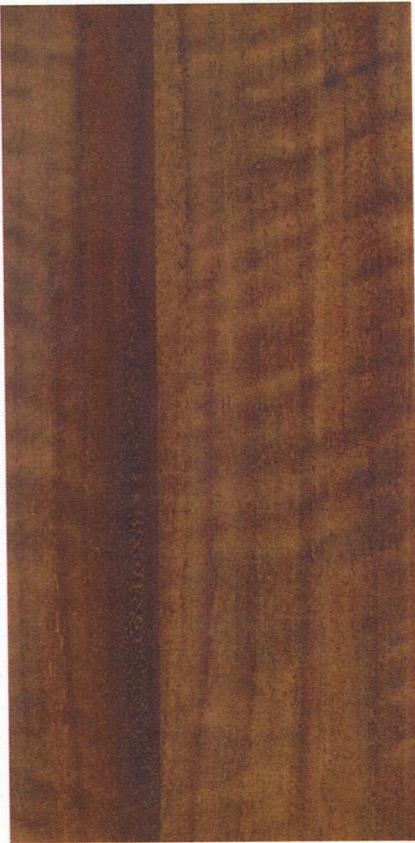
ブラックウォールナット



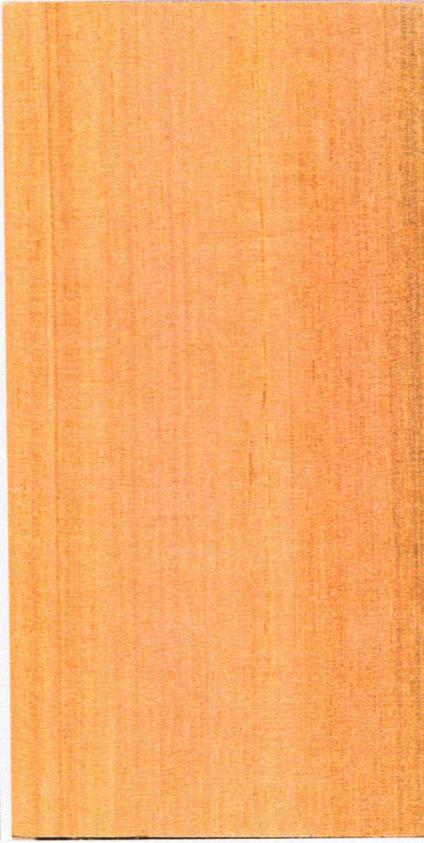
ブラックウォールナット



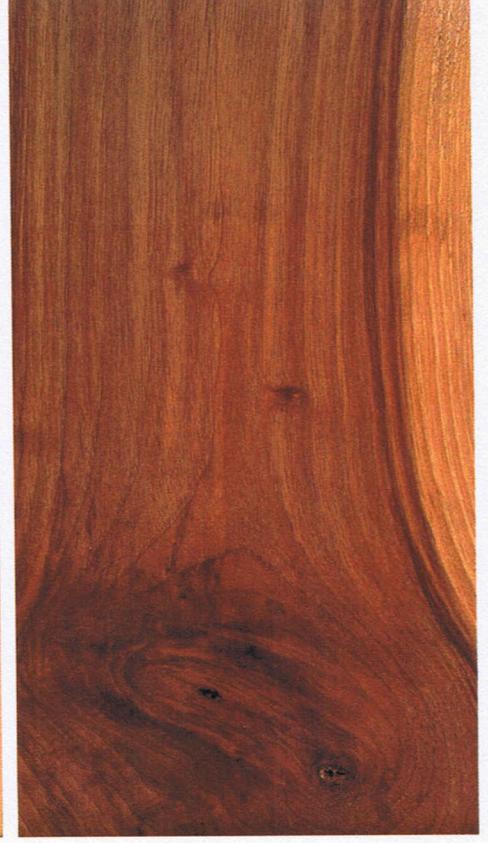
ブラックウォールナット



クラロウォールナット®



オニグルミ(ジャパニーズウォールナット)



ヨーロッパウォールナット®



クイーンズランドウォールナット®



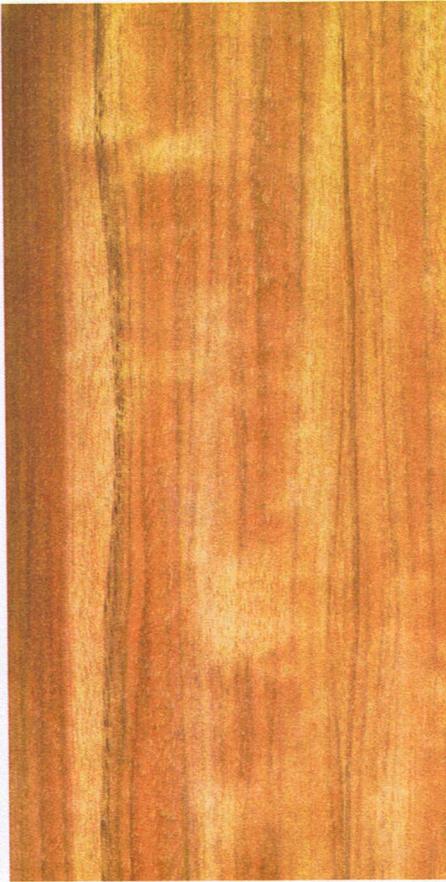
インビア(ブラジリアンウォールナット)®



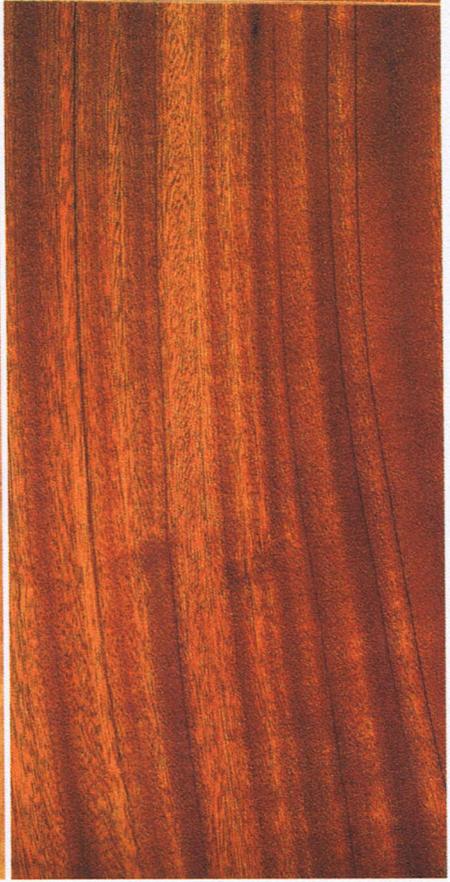
マンソニア(アフリカンブラックウォールナット)®



レオ(ニューギニアウォールナット)<sup>⑤</sup>



パルダオ(テーブルランドウォールナット)<sup>⑤</sup>



ラボア(アフリカンウォールナット)<sup>④</sup>

同属の樹種	木材の特徴
オニグルミ (鬼胡桃) ( <i>J. sieboldiana</i> )	日本産のウォールナットで、材質はブラックウォールナット等とほぼ同様であるが、材色はそれよりも薄く、軟らかい感じがする。国産の銃床は、専らオニグルミが用いられてきた。家具や室内にもかなり利用され、また、彫刻や象嵌にも加工のしやすさから使われてきた。
ヨーロピアンウォールナット ( <i>J. regia</i> )	欧州から中東地域に産するウォールナットで、材質はブラックウォールナット等とほぼ同様で材色も近い。家具材として、17世紀後半～18世紀中頃、西洋のバロック～ロココ様式の頃、特に流行したウォールナットはこれが基本であった。ブラックウォールナットに比較して辺材の割合が高いため、使える部分は多くない。

異種同名の樹種	木材の特徴
クイーンズランドウォールナット ( <i>Endiandra palmerstoni</i> )	オーストラリアの熱帯地方産で、ウォールナットと材面は似ているが、別の種類(クスノキ科)である。ウォールナットに比較して、若干重硬(比重0.67)で、縞模様の杣が明確である。乾燥性や加工性は難しい面があり、狂いや割れを生じやすい。高級家具やキャビネット、フローリング等の室内造作、突板合板にも用いられている。
インブイア ( <i>Phoebe porosa</i> )	ブラジル産、ブラジリアンウォールナットとも呼ばれて取引されてきた。濃色の縞模様があり、ウォールナットの材面と似ているが、別種(クスノキ科)である。比較的重硬(比重0.66)であるが、乾燥性や加工性は比較的良好である。粉塵が皮膚炎を起こすことがあるので注意が必要である。高級家具やキャビネット、室内造作、化粧合板として使われている。

異種同名の樹種	木材の特徴
ラボア ( <i>Lavoa trichilioides</i> )	西アフリカ産で、アフリカンウォールナットとして取引されてきた。ロボアウッド、アロナウッド、ナイジェリアンウォールナット、ガーナウォールナット等と言われることもある。濃色の帯状の模様を生じることがあり、ウォールナットに似ているが、全く別の種類(センダン科)である。あまり重硬でなく(比重0.56)、乾燥性や加工性も比較的扱いやすいが、割れやすいことがある。家具やキャビネット、室内造作等や化粧単板としても用いられている。
マンソニア ( <i>Mansonia altissima</i> )	西アフリカ産で、アフリカンブラックウォールナットという名で取引されてきた。あまり重硬でなく(比重0.59)、乾燥性や加工性も良好である。ブラックウォールナットの代替材として、家具やキャビネット、室内造作、化粧単板等に用いられている。
パルダオ ( <i>Dracontomelun dao</i> )	フィリピン原産で、東南アジア、太平洋諸島一带に分布している。木目や材質はウォールナットに似ているが、別種(ウルシ科)である。材色は時に縞模様も見られるが、ブラックウォールナットのような色調ではない。乾燥性や加工性は良好で、あまり重硬(比重0.60)でなく、扱いやすい木材である。着色するとブラックウォールナットに似ているので、家具や室内造作材等の代替材として広く使われている。

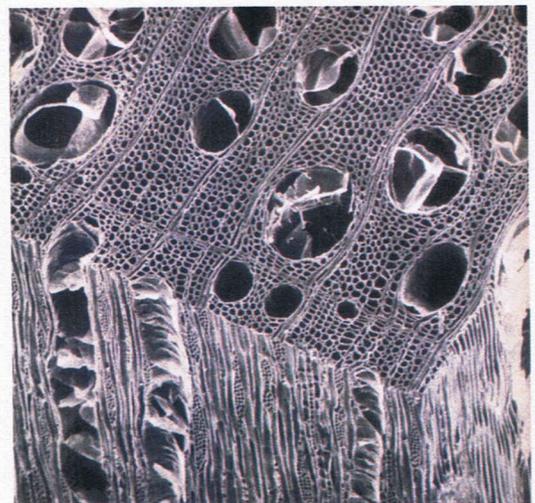
ウォールナットはマホガニー、ローズウッド、チークと並んで、最も有用な家具・内装材とされています。材面の美しさとともに、加工のしやすさ、製品になったときの安定性等、非常に優れた木材です。また、使い込めば使い込むほど、深い味わいのある銘木です。

ブラックウォールナットはアメリカ中部・東部を中心として生育するクルミ科クルミ属の落葉広葉樹です。顕微鏡写真で見ると、道管が年輪のはじめに大きく、終わり頃に小さくなっていて、半環孔材といったところでしょう。

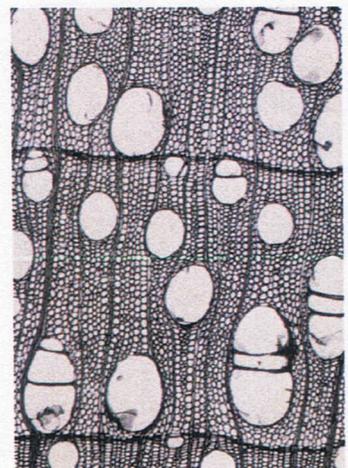
同属のものとして、日本産のオニグルミ、ヨーロピアンウォールナットがあり、中国やアメリカ西部等にもチャイニーズウォールナット、クラウォールナット等があります。実(み)胡桃(くるみ)として食用にされていて、テウチグルミやシナノグルミ等の栽培用の種類もあります。

木材も非常に有用なもので、柾目面に生じる縞模様の空や独特の材色等とともに、加工性や乾燥性が良好で、使いやすい木材であったといえます。材色や縞模様の出方に幅があり、装飾性の高い雰囲気があります。重さも中庸(比重0.48~0.88)で、その割に靱性がある、割れたり、狂ったりしにくいこと、仕上がりも美しい等、家具・木製品、室内造作用部材として、非常に好まれていました。また、木彫、象嵌、寄木にも用いられていました。欧州では17~18世紀にかけてバロック~ロココ期に特に流行し、ウォールナット時代と言われたほどでした。優雅で軽快感のある曲線を多用し、木彫を部分的に施したような様式です。また、軽さや狂いのなさ、衝撃強さ等を生かして、鉄砲の銃床にはほとんどがウォールナット(欧州ではヨーロピアンウォールナット、日本ではオニグルミ)が使われていました。

ウォールナットが銘木として珍重されると、これに似たような木目とか材色のものを〇〇ウォールナットとして流通するようになります。ウォールナット調という表現なら、まだ良いのですが、商品名(樹種)として〇〇ウォールナットと表現するのは、誤解と混同を与えやすいので、適切とは思えませんが、慣習として通っています。クイーンズランドウォールナット、アフリカンウォールナット、ブラジリアンウォールナット、ニューギニアウォールナット等々があります。本当のウォールナットではないといっても、十分に素晴らしい木材で、時には銘木とされているものもあります。ですから、それを回避するというべきではなく、承知をしておくべきものと思われます。最近では固有名に切り替えてきているものもあり、インブイア(ブラジリアンウォールナット)、マンソニア(アフリカンブラックウォールナット)、ラボア(アフリカンウォールナット)というようになってきています。



走査型電子顕微写真(×100)<sup>①</sup>



木口面の顕微鏡写真(×40)<sup>①</sup>